



# 2027年国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」

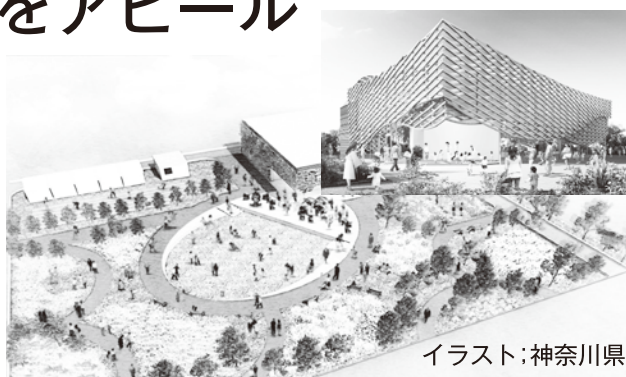
## 神奈川県を取り組み

国際園芸博覧会は、気候変動などの世界的な環境変化を踏まえた上で、自然環境が持つ多様な機能を暮らしにいかす知恵や文化について考え、園芸文化の普及、花と緑があふれ農が身近にある豊かな暮らしの実現などを目的として、「幸せを創る明日の風景」をテーマに2027年3月19日～9月26日まで、横浜市瀬谷区と旭区にまたがる旧上瀬谷通信施設で開催され、現在70か国の国・機関が参加を表明しています。

神奈川県は、「いのち輝く"Vibrant INOCHI"」をメインテーマに掲げ、花き園芸・造園・農の振興、県の施策の理解・促進及び観光振興を含めた経済の活性化につなげる取組を進めています。

## 展示は、県の施策をアピール

神奈川県のゾーンは約5000㎡に屋内施設700㎡と屋外庭園で構成され、屋内の展示は屋外庭園と連動しながら、県が推進する施策（共生社会の実現、持続可能な社会づくり、未病の改善など）をより深く理解できる展示に。屋外では、園芸を通じた共生社会の実現や持続可能な社会づくりなどのモデル展示、子ども達による庭園づくりなど県民参加の庭園の活用や農を活かした展示などテーマを分かりやすくイメージさせるため毎日様々な催事を行います。



イラスト；神奈川県

### Vibrant INOCHI 一人ひとりの“いのち輝く”

テーマは、花や緑、農などの植物、自然を通じて、  
一人ひとりの“いのち輝く”喜びや感動を与え、自然も人も輝く持続可能な社会の創造。

#### 共生社会の実現

- 「共に生きる」の体感と共感
- 農の福祉力など、命輝かせる農の可能性を引き出す
- 障害の程度、年齢などに関係なく誰もが楽しめる庭園

#### 持続可能な社会づくり

- 脱炭素社会の実現
- 資源循環の取組の発信・展開
- 生物の多様性
- スマート技術を活用した持続可能な農業の促進

#### 未病の改善

- 食、運動、社会参加から一人ひとりの未病改善を促す
- いのちを支える農、食の意識を高める

神奈川県の屋外庭園は、県内各地域の特色ある花や緑を植栽し豊かで美しい神奈川県土を、また、屋内展示施設は、県産木材を格子状に組み、神奈川の海（波）の柔らかな曲線を表現します。

神奈川県では、県の展示を通じて県の施策である「共生社会の実現」「持続可能な社会づくり」「未病の改善」を来場者により深く理解していただけるように、五感を使う体験型展示で子どもにも分かりやすく発信するなどの展示が求められます。

また、県のオリジナル品種や県内産地の魅力をPRし、市町村・学校・企業・NPO等と連携した“オール神奈川”の参加型の場として、イベント終了後もレガシーとして残る展示を行うようこれからも提案し働きかけてまいります。



## あらい絹世の 歩いて 見る！ 磯子のまち あれ？ これ？

### 峰 町

(〒235-0044)

人口: 371人 世帯数: 165世帯 (令和7年11月現在)

かつては峰村と言われた峰町は、武蔵国久良岐郡上郷村の一部で、正保年間(1644～1648年)から元禄年間(1688～1704年)頃に上郷村から分村したと考えられています。1889(明治22)年4月1日に峰村と笹下・日野・矢部野・田中・栗木・上中里・氷取沢の各村が合併して日下村となり1927(昭和2)年4月1日、横浜市に編入され同年10月1日、磯子区政施行に伴い磯子区峰町となりました。

峰町の市営バスが通る道は、関東大震災後の失業救済事業の一環として施工、1932(昭和7)年、県道として竣工され、同時期に杉田から市営バスが運行されたことで横浜市道として横浜市が管理しています。県道が開通した際に脇を流れる小川と挟んだ東側の土地との間に橋を架けて「更新橋」と名付けられました。峰町にある浄土宗の護念寺の当時のご住職が入口付近にあった茶店の下足番の収益を基に、峰町の発展に寄与することを目的に活動していました。それを「更新会」と言い、その名前と一致していますが、命名は定かではありません。

峰町から港南台にかけて横浜市内で一番高い標高153.3mの円海山があります。この山はかつて長野山と呼ばれていましたが、新編風土記稿には長野山の山頂に浄瑠上人が立ち四方を見渡すと周囲の山々がまるで海の波のように見えたことから円海山と呼ばれるようになりました。

お灸で有名な護念寺の境内を抜けた雑木林の中に霊石と呼ばれる直径が約20cmほどの石があります。型からすると五輪塔の一部と思われます。あるとき、村人が茅を刈っていたところ、この石がじゃまで動かしたら高熱をだし倒れてしまいました。以前にも石を動かした村人が高熱を出し亡くなったと伝えられています。

また、この石の傍に三尺ほどの長さで胴回りが一尺もある「つと蛇」と言われた蛇が居たそうで、「ツチノコ」かもしれません。村人が言うにはこの地の主である語られています。

### 「神奈川県庁舎 各階」 政策局 政策部 総合政策課

総合政策課は「県行政の総合的企画及び調整」を担う中枢部署で、「県行政の総合的企画及び調整を担う政策調整グループ」と「総合計画の策定及び進行管理を担う計画グループ」の2つが県政を横断して、知事の政策方針を各部局の施策に反映させるための総合調整や部局間・国・市町村等との連携を進めています。

政策調整グループは、小学生が県のことを社会科などで学習するときに参考となる『わたしたちの神奈川県』の作成や知事と教育委員会が教育課題を協議する神奈川県総合教育会議に関する事務を所掌しています。

計画グループは、県の総合計画の策定と進行管理を担い、神奈川県総合計画審議会を通じて有識者の知見を政策形成に取り込んでいます。

2012(平成24)年に県政運営の総合的・基本的指針を示す総合計画として、神奈川の人口が減少に転じることが予測される2025年を見据え、「かながわグランドデザイン基本構想」を策定、基本理念である「いのち輝くマグネット神奈川」の実現に向けて、超高齢社会や将来到来する人口減少社会をはじめとする様々な課題への対応を着実に進めてきた総合計画の中核である「新かながわグランドデザイン」に、2040年を展望した将来像と政策の基本構想を示し、その実現へ2024～2027年度の取組を実施計画として「ジェンダー」「ともに生きる(ともいき)」「当事者目線」の3つの視点で政策の立案・企画・実施に当たっています。

毎年、各プロジェクトの進捗状況について有識者で構成される総合計画審議会で審議が行われ、4段階で評価を受けます。2024年の評価では、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念の普及啓発や障がい児・者が望むくらしの実現に向けた取組などが遅れているとの事でした。

また、令和8年は昭和元年から起算して満100年となり、戦後の発展を築いた昭和の時代や、当時の県政を振り返ることは意義深く、その節目に合わせ令和8年に県および県内市町村では、昭和100年に関連するイベント等を実施していきます。例えば、1月には神奈川県立三ツ池公園で昭和100年日本の昔遊び体験展示や神奈川県立神奈川近代文学館では川端康成・谷崎潤一郎など神奈川に所縁のある昭和の文豪の展示などを行います。

昭和43年 横浜市磯子区生まれ。 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業。

日商岩井株式会社に8年、株式会社メタルワンに5年勤務。

平成23年 神奈川県議会議員選挙 初当選 以後連続4期トップ当選。

県民スポーツ常任委員会・厚生常任委員会・予算委員会など各委員長を歴任。

現 在 厚生常任委員会、安全安心・未来環境特別委員会、予算委員会各委員、かながわ自民党副幹事長。

